

# 1.1 これが配線略図だ

## ✂ 線路の接続も「配線」である

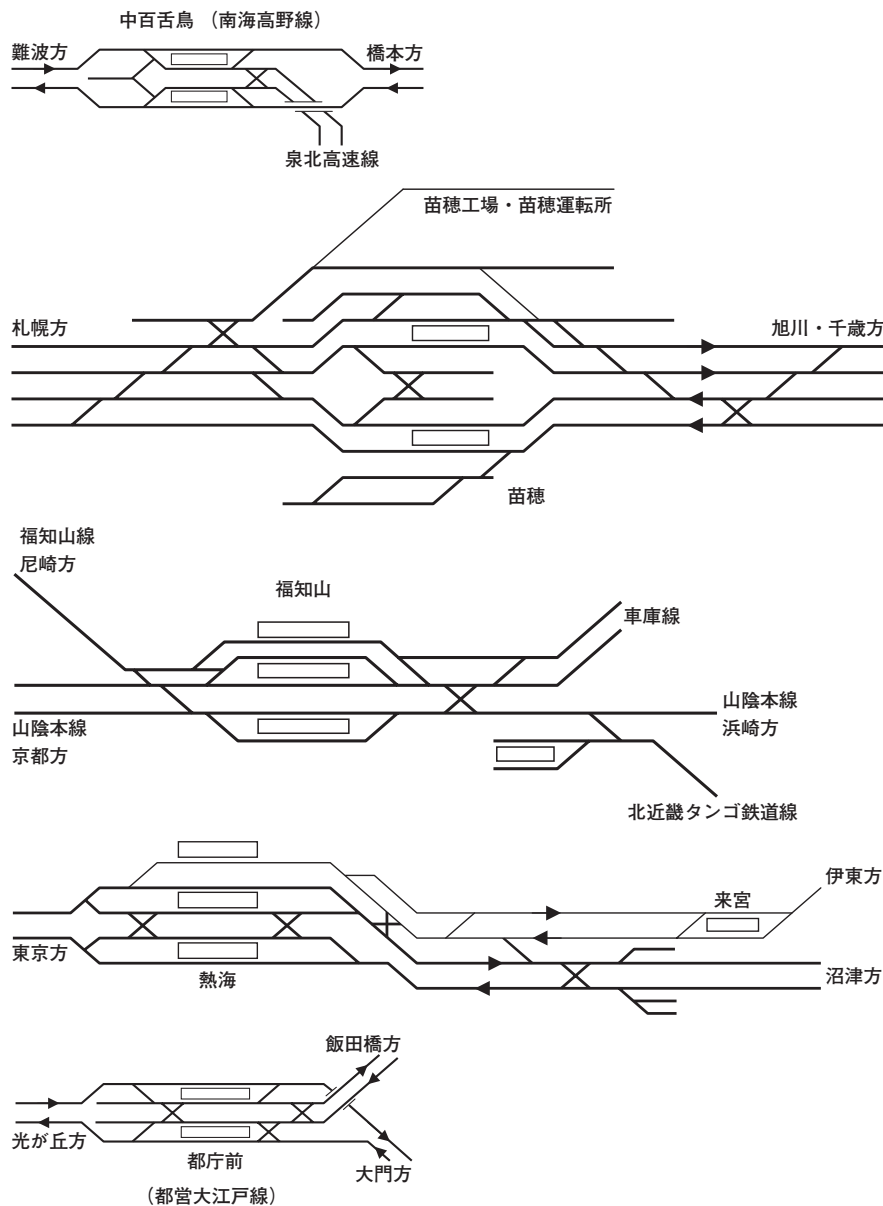
「配線」と聞くと、電気系統の配線などを連想することが多い。しかし、鉄道の世界では線路の配置やつながりのことも「配線」と呼ぶ。その配線がどうなっているかを表記するのが、本書のテーマになっている配線略図だ。

線路と線路が分岐・合流するところには、分岐器(ポイント)を設置する。その分岐器にもいろいろな種類がある。また、分岐・合流以外にも、線路同士が交差するケース、交差しつつ分岐可能にしたケースなど、さまざまなパターンが存在する。また、旅客の乗降を行うためには、線路に沿ってプラットフォームを設置する必要がある。そのプラットフォームが、線路のどちら側に配置されているのか、そもそもプラットフォームがあるのか、といったことも重要な情報になる。

こうした情報を略図の形で表記して、線路がどういった形でつながっており、そこにプラットフォームなどの施設をどう配置しているかを把握できるようにするのが、配線略図を書く目的となる。場合によっては、線路ごとに進行方向が分かるような矢印を付け足すこともある。

ただし、あくまで「略図」だから、距離・カーブ・勾配など、線路を構成するあらゆる要素を正確に再現することは目的としていない。配線略図で表記する情報は、あくまで「線路と線路が、どうつながっているか」が本題となる。付随的に、信号や有効長(これについては後述する)に関する情報を含める場合もあるが、これはどちらかというと例外だ。

図 1.1 さまざまな配線略図の例



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

配線略図の基礎知識